

一般会計税収（2017年1月末時点）

発表日：2017年3月1日（水）

～トレンドは上向き～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 星野 卓也
 TEL:03-5221-4547

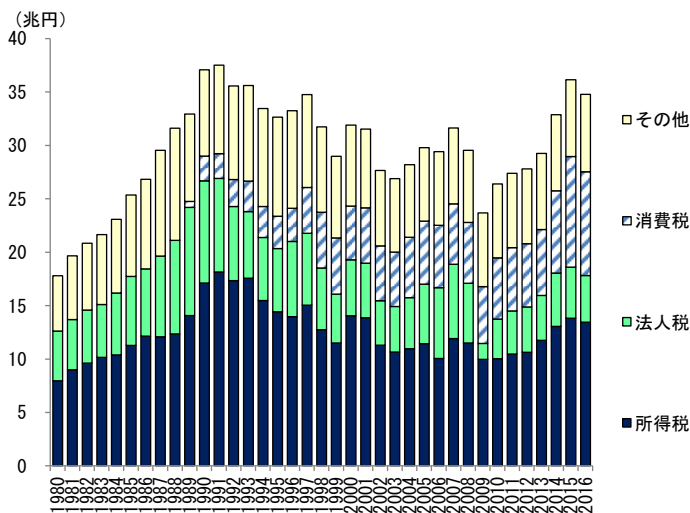
2016 年後半以降、改善方向にある税収

財務省の公表した2017年1月末時点の税収実績によれば、1月末時点の税収累計額は34.8兆円（前年比▲3.4%）となった。筆者の季節調整値に基づけば、1月単月の税収額は前月比▲2.5%の減少となるが、12月の同+3.9%と均してみれば引き続き増加基調にあるとの評価で良いだろう。2016年前半は円高が重石になったことで税収に減少圧力がかかったが、既に税収はボトムアウトしていると考えて良い。

1月時点累計値の前年比を税目別にみると、所得税が前年比▲2.7%の減少、法人税、消費税はそれぞれ同▲8.6%、▲5.1%の減少である。法人税は年前半の円高を受けた企業利益の低下が、消費税についても円高に伴う輸入額の減少が効いている。

本日公表された法人企業統計によれば、企業の経常利益は3四半期連続の前期比増加、季節調整値でみた利益水準は既往最高となった。上向き製造業循環と11月以降の円安進行を追い風に、国内企業の利益は着実に改善方向にあることが示されている。これに対応する形で、2016年度後半の法人税収入も改善方向で推移する公算が大きい。現状の金融環境を前提とするならば、2016年度の税収が第3次補正予算時点での見込み値55.9兆円を上回る可能性も十分あるだろう。

資料. 税収（1月末時点累計値）



(資料1出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

(資料2出所) 同上。季節調整値は第一生命経済研究所。太線は6ヶ月移動平均。シャドー部は景気後退期。

資料. 税収（季節調整値）の推移

